リハビリテーション科学部

学校推薦型選抜（一般）　小論文

問題　以下の文章を読み，設問に答えなさい。

「障害」という体験は，①ある社会の中で多数派とは異なる身体的条件をもった少数派が，多数派向けに作られた社会のしくみ（ハード，ソフトの両方）になじめないことで生じる，生活上の困難のことである。それは少数派と社会との「あいだ」に生じる齟齬（そご）に起因するものであって，その発生原因を一方的に少数派へと帰責できないものだ。

しかし過去を振り返ると，社会は少数派の身体を包摂するように自らのしくみを変化させるかわりに，少数派に対して過剰な適応を強いてきた，という歴史がある。その過剰適応的介入の矛先は，少数派の心身の両方にまたがっている。本章で述べた[注)] ②「健常な動きに近づける」という同化的な発想のリハビリテーションも，社会への過剰適応を反映した一つの歴史的なエピソードであると言えるだろう。≪まなざし／まなざされる関係≫というのは，過剰適応を現場で実践するための，普遍的な装置である。

このような，少数派に過剰適応を強いる同化的なリハビリテーションの発想は，過去のものになったわけではない。むしろ前よりもいっそう巧妙な形で現場に生き残っていると言えるかもしれない。油断すればすぐにリハビリ現場に侵入してくる過剰適応の圧力に対して敏感になるためにも，本章の最後にこれまでのリハビリテーションの歴史について見ておこうと思う。

注）本章で述べた，とあるが問題の本文中には本章にあたる部分の記載はない。

【出典】熊谷晋一郎　著『リハビリの夜』　2009 年　医学書院　から抜粋，一部修正。

問題 1　下線部①の例と考えられるものを 200 字以内で具体的に説明しなさい。

問題 2　下線部②を踏まえたときに，あなたはこれからの社会においてリハビリテーションはどうあるべきだと考えるか。また，そのあるべき姿を実現するためには，リハビリテーションに携わる者にどのような力が求められると考えるか。自分自身の考えを 800 字以内で述べなさい。